

史上初のシリーズ全作品アカデミー賞獲得なるか!

全米の熱い視線は今この一作に...



The Godfather
PART III

ゴッドファザー PART III

'91年陽春ロードショー!
パラマウント映画 UIP配給

最後の偉大なる映画! PART3 完成間近!!

「ゴッドファーザー PART III」は、コルレオーネ一族と、パチカンとの、不可解な関係を描いている。コッポラはこう説明する。「私は、かねがね、純粋な富と権力の影響に、非常に興味を持っていた。コルレオーネ一族は、正当な存在になりたかった。パチカンは、正当な存在だ。そして、パチカンは世界の金を動かせる、ひとつの独立した国家なのだ。」

マイケル・コルレオーネ(アル・パチーノ)は、彼の交渉手腕の全てをかけて、コルレオーネ一家の財産を正当化するため、パチカンを仲介者に、ヨーロッパ各国の不動産取引に手を出す。しかし、マイケルは、狡猾な銀行家たちの口車に乗せられた古い友人たちの裏切りに合い、また、兄ソニーの私生児ビンセント(アンディ・ガルシア)の気の短さに頭を痛める。

そして、法王が病に倒れ、ローマとコルレオーネ家の取り引きは危機に頻してしまふ。また、シシリーでは、マイケルが、敵の猛攻撃を受ける。

唯一の慰めは、離婚した妻ケイ(ダイアン・キートン)と、マイケルに命令されていた法律家の道ではなく、オペラ歌手としての道を選んだため、疎遠になっていた息子のトニーとの和解である。

コルレオーネ一族の過去も描くこの映画は、現在の政治状況という点で、非常にタイムリーなテーマを持っているとコッポラは考えている。「マイケルは救いを求めて、ヨーロッパに目を向け、

新しくかつ、大胆不敵なヨーロッパの存在と、アメリカへの挑戦に直面するんだ。」

コッポラは、これまでの彼の作品と同様、この映画でも、テーマだけでなく、映画製作技術にも、熱心に取り組んでいる。チネチッタの彼のオフィスで、コッポラは、各カットの手書きの絵コンテが入力されたコンピューターのモニターを見つめている。

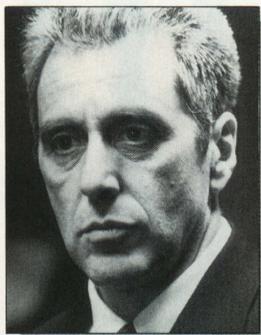
この、8年か9年、ゾーエトローブ・スタジオが開発してきた技術のおかげで、彼等はプリ・プロダクション、プロダクション、ポスト・プロダクションを、それぞれ分かれた存在から、ひとつの統合された存在へと変える事が可能になったと、コッポラは言う。

「撮影後すぐに、私は、アル・パチーノと共に、その日撮影しすでにきちんと編集のすんだフィルムを見て、検討する事ができるんだよ。」

コッポラはすでに、この映画が、14巻、2時間20分になる事が分かっている。「この規模の映画製作を扱う場合、3時間の映画を撮影して40分カットする余裕はない。カットするのなら先に40分カットしなきゃ。」

彼は、この「ゴッドファーザー PART III」の製作を楽しくやっていると語っている。「ただ、大金を稼ぎたいために私がやっている何かというだけではないんだ。この映画は、本当に素晴らしい作品になると思うからさ。」

ゴッドファーザー PART III



【キャスト】

アル・パチーノ
ダイアン・キートン
タリア・シャイア
アンディ・ガルシア
イーライ・ウォラック
ジョー・モントーニャ
ブリジット・フォンダ
ジョージ・ハミルトン
ソフィア・コッポラ

【スタッフ】

製作・監督 …フランシス・コッポラ
原作 …マリオ・プーゾ
脚色 …マリオ・プーゾ
フランシス・コッポラ
製作総指揮 …フレッド・フックス
ニコラス・ゲイジ
音楽 …カーマイン・コッポラ
ニーノ・ロータ
撮影 …ゴードン・ウイリス
衣裳 …ミレナ・カノネロ

映画史上に不滅の PART 1 は当時これだけの難産の末に誕生した!

パラマウントは、この原作映画化権をわずか1万ドルで手に入っていた。コッポラの当時の監督料は、2万ドル、主要キャスト、パチーノ、ジェームズ・カーン、キートン、ロバート・デュバルらのギャラは、各35,000ドル、マーロン・ブランドだけが5万ドルのギャラと、純益の10%の配当をもらう契約だった。(後に、ブランドは、彼の配当を、パラマウントに売り戻している。)

「ゴッドファーザー」は大ベストセラーであったにもかかわらず、映画化が決定した1970年に次々と12人の監督がこの仕事を断わった。

この映画をオファーされたコッポラは、マフィアを美化するのは、筋違いだという論争について、色々検討した。そして、彼は「ゴッドファーザー」が、ギャング映画ではなく、家族の年代記であるとの結論を出した。彼は、これを受ける事にした。

「ゴッドファーザー」の監督コッポラの最初の数週間は、傷心の日々だった。彼が選んだブランドやパチーノを含めたキャストは、ことごとくスタジオに却下された。そして、撮影開始までに

7週間しかないのにコッポラは30人の新しい俳優をオーディションするように指示された。が、テスト・フィルムを見てスタジオは意見をくつがえし、コッポラの選んだキャストにOKを出したのだ。

しかし、そのオーディションのせいで、コッポラは準備を邪魔され、撮影スケジュールが2週間遅れた。すると、スタジオは、交替が必要なのはコッポラだと言い出し、数人の監督が面接され、コッポラがクビになりエリア・カザンが監督になると噂された。

差し迫った解雇に直面したコッポラは、緊急態勢で映画を撮影する事にした。常時セリフを忘れるマーロン・ブランドのためには、セリフのキュー・カードを見せながら撮影した。スクリーン・テストのせいで、ちゃんとしたりハーサル時間をもらっていなかった若手キャストも、コッポラの意を良く汲み、無駄な演技をしなくなった。

緊急態勢が始まって4週間後、カザンは必要ではないだろうとスタジオの決定が下されたのである。

'91年陽春ロードショー!

特別鑑賞券発売中! (一般¥1300/学生¥1100/ファミリー¥2300)

伊勢丹前 シネ・タウン

新宿スカラ座

03
(351)
3127